科学という方法への構え

181214@JST
学際融合教育研究推進センター
宮野公樹

- 何者か
  - 学際融合教育研究推進センター准教授・国際高等科学研究所客員研究員
  - 専門：大学論、学問論、政策哲学（かつては金属組織学、医工学、ナノテクノロジー）
  - 京都大学の学問の土壌づくり（気風）を目的とする組織で活動。それが我が学問
- 異分野交流会での彼の質問
  - いわゆる文系の論理展開が理解できない
  - 自分の都合いいようにで引用している
  - → データがあれば正しいとでも？
- ある分子生物学研究者の研究目的
  - 細胞レベルでの力学計算。とても斬新で立派なご研究
  - なぜこの研究に着手したかの理由を聞かれて、「この世界を表現したいから」とのこと
  - → アーティストの爪の垢でも煎じて飲ませたい
- 京大と芸大とのコラボ企画での吐気
  - 京都市立芸術大学の院生を京都大学桂キャンパス迎えて、京大理工系院生らによる研究紹介と研究室案内
  - その後、広い会場で、芸大生の作品展示
  - → 難しい理論や技能習得は勘違いを創発させる
- 結論
  - 自分はいかに囚われているか。思考の殻に気づくのが学問。研究とは違う。　専門など、壊すものであって守るものではない
  - 学問はかつて言葉（精神）が対象。今は事実の説明。
  - 本居宣長『いかならむ　うひ山ぶみのあさごろも　浅きすそ野のしるべばかりも』